

大野ひろ子の 議会報告



平成25年
第2回定例会（6月議会）
より

○一般職職員の給与が減額されます。

一般職職員の給与が平成26年3月31日まで平均で4・3%減額となります。この案件に伴い、鶴ヶ島市市議会議員の議員報酬減額を提案しましたが継続審議となりました。

○市民活動推進センター内に市役所出張所が開設されます。

共栄一本松線の開通に伴い、平成25年10月1日からワカバウォーク1階の市民活動推進センター内に鶴ヶ島市役所駅前出張所を設置、市の窓口としてサービスが拡大されます。

○平成25年度一般会計補正予算

今回の補正で5億2726万8千円を追加、総額198億9346万8千円となります。

主な内容

・老朽化と耐震化に伴う富士見保育所の建て替えを行うための設計費が計上されています。栄小学校の敷地内に移転する予定です。
・養命酒製造株式会社のメガソーラー事業がいよいよ始まります。市は3月に同社の他に日産自動車とも協定を結びました。環境教育施設は養命酒製造株式会社が建築、市は設置をするうえで付帯設備の工事を行います。現在施設のデザインをプレゼンする鶴ヶ島プロジェクトが進行中です。

・鶴ヶ島中、藤中、富士見中、西中、南中の市内中学校5校に、国からの元気臨時交付金を活用し前倒しで空調工事を実施します。これに鶴ヶ島市内の小中学校13校すべてに空調が入ります。

一般質問①

将来を見据えた保育計画を

新入学新入園の4月を目前に、杉並区に続いてさいたま市でも保育所増設を求める要望書が提出されました。

当市の待機児童数は、平成25年4月1日現在、公立、私立あわせて、第1希望のみで22名となっています。

今後、出産後も働く女性が増え続けていくことを考えると、子育て支援の柱となる「保育計画」の重要性を感じます。

施設面からも施策面からも、安心して子育てができるまちであるべき、という観点から質問しました。

答弁

・第1希望でなくても入所していれば待機児童としない国のカウントでは、鶴ヶ島の待機児童は3名。現在鶴ヶ島市内の保育所定員は公立私立あわせて1000人となっている。

市内6園ある私立幼稚園1550人の定員は、ほぼ80%で横ばい。一方、保育園の入園希望者はここ10年で1・5倍。子どもがいても働き続ける、また、働きたい女性は増え続けている。0～3歳児を預けられる保育園の需要が高まっている。

今年度ニーズ調査を行い、すきっぷ（次世代支援育成計画26年度まで）の次の子ども子育て支援計画を策定する。27年度から始まる子ども子育て支援法の方向性、働いていてもいなくても預けられる幼保一元化を念頭に検討していく。

*前年度の4月1日現在の待機児童が50人以上の市町村が保育計画の策定対象。これにかわるのが当市は「すきっぷ」。



子育て世代の人口増は、市の将来を考える上で重要な視点です。地域性や利用者のライフスタイルに応じた子育てのしやすい環境が望まれています。

一般質問②

支え合い協議会の目指すもの

鶴ヶ島市第5次総合計画のリーディングプロジェクト「共に支えあう仕組みづくり」は、身近な地域福祉を広げていくだけでなく、協働のまちづくりコミュニティの形成、そして地域福祉に携わる市民の生きがいの場として、多岐にわたる可能性を含んだ事業だといえます。

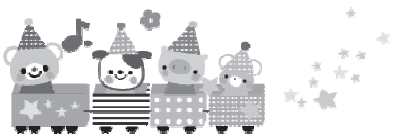
第二小学校地域支え合い協議会も、富士見地区地域支え合い協議会も活発な活動が展開されており。

「議員からの提出議案」3件

○職員の給与の減額に準じて、公平性の観点から鶴ヶ島市市議会議員の議員報酬を減額する提案をしましたが総務常任委員会で継続審議となりました。

○栄小体育館の耐震化工事の一般競争入札の受付事務で、告示期限までに必要な書類を提出せず電話で参加意思を伝えた企業が本工事を落札したことについて5月29日新聞で報道されました。二度とこのような事が起こらないように、議会からも厳格な競争入札を求める決議を提案しましたが、賛成少数で不採択となりました。

○「子宮頸がんワクチン接種の一時中止と被害者救済の明確化対策を講じること」を求める意見書」は賛成多数で採択となりました。



市長のマニフェストの柱でもある支え合い協議会の方向性と目指している着地点について質問しました。

答弁

社会構造の変化によるつながりの希薄化が進んでいる。地域支え合い協議会の取り組みは、日常の暮らしの中とともに支え合い、助け合う関係づくりと地域の課題を地域で解決できるモデルをつくることを目指している。

方向性としては、将来的に責任が持てる組織になってもらいたいと考えている。財政的な部分も自ら確保できる形も必要。行政の下請けというような意味合いではない。地域で支えあう、昔からあったものも含め、施設の運営、対価、また、福祉的な介護の部分も担っていただけたらいいのではないかと、さらに力強く進んでいただけるとありがたいというイメージを持っている。

☆すでに地域で活動しているNPO法人やワーカーズコレクティブの情報も紹介、共有していただきたいと提案しました。



高齢化率が40%にもなる地域は支える側がいなくてもなりません。どこにも必要な仕組みですが進め方が課題ではないでしょうか。